

## 算術調和平均アルゴリズムとSakaki-Kakei方程式の 一般解とその分類

近藤, 弘一  
同志社大学理工学部

<https://doi.org/10.15017/18717>

---

出版情報：応用力学研究所研究集会報告. 21ME-S7 (27), 2010-03. Research Institute for Applied  
Mechanics, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

応用力学研究所研究集会報告 No.21ME-S7

「非線形波動研究の現状と将来 — 次の 10 年への展望」 (研究代表者 矢嶋 徹)

共催 九州大学グローバル COE プログラム

「マス・フォア・インダストリ教育研究拠点」

Reports of RIAM Symposium No.21ME-S7

*Current and Future Research on Nonlinear Waves —  
Perspectives for the Next Decade*

Proceedings of a symposium held at Chikushi Campus, Kyushu University,  
Kasuga, Fukuoka, Japan, November 19 - 21, 2009

Co-organized by

*Kyushu University Global COE Program*

*Education and Research Hub for Mathematics - for - Industry*

Article No. 27 (pp. 179-184)

# 算術調和平均アルゴリズムと Sakaki-Kakei 方程式の一般解とその 分類

近藤 弘一 (KONDO Koichi)

(Received January 25, 2010)



Research Institute for Applied Mechanics  
Kyushu University  
March, 2010

# 算術調和平均アルゴリズムと Sakaki-Kakei 方程式の一般解とその分類

同志社大学理工学部 近藤 弘一 (KONDO Koichi)

概要 Sakaki-Kakei は超幾何関数の関数等式より得られる保存則をもつ非可逆 2 次元離散力学系を 12 種類提出した。本論ではこのうち第 3, 5, 6 番目の方程式の一般解を求めることを目的とする。これらの方程式は、算術調和平均アルゴリズム、ロジスティック写像と関連することを明らかにする。

## 1 はじめに

論文 [1] では、超幾何関数の関数等式で表される保存量をもつ不可逆な 2 次元離散力学系を 12 種類提出している。簡単のため、論文出現順に SK-1, SK-2, ..., SK-12 と略することにする。これらの方程式は、[1] で示唆されているように、可解カオス系との関連が期待される。本論では、次の 3 個の方程式

$$\text{SK-3: } a_{n+1} = \frac{(a_n + b_n)^2}{a_n - b_n}, \quad b_{n+1} = \frac{4a_n b_n}{a_n - b_n}, \quad (1.1)$$

$$\text{SK-5: } a_{n+1} = \frac{(2a_n - b_n)^2}{4a_n}, \quad b_{n+1} = \frac{b_n^2}{4a_n}, \quad (1.2)$$

$$\text{SK-6: } a_{n+1} = \frac{4a_n(a_n - b_n)^2}{(2a_n - b_n)^2}, \quad b_{n+1} = \frac{-b_n^2(a_n - b_n)}{(2a_n - b_n)^2} \quad (1.3)$$

の解を、算術調和平均アルゴリズムと関連付けて導出する。

## 2 算術調和平均アルゴリズム

算術調和平均アルゴリズム (AHM)

$$a_{n+1} = \frac{a_n + b_n}{2}, \quad b_{n+1} = \frac{2a_n b_n}{a_n + b_n} \quad (2.1)$$

は、初期値が  $a_0 > b_0 > 0$  のとき特殊解

$$a_n = \sqrt{a_0 b_0} \coth(2^n \sigma), \quad b_n = \sqrt{a_0 b_0} \tanh(2^n \sigma), \quad \sigma = \tanh^{-1} \sqrt{\frac{b_0}{a_0}} \quad (2.2)$$

をもつ。 $a_n, b_n$  は両方とも  $\sqrt{a_0 b_0}$  に 2 次収束する。また、初期値が  $a_0 > 0, b_0 < 0$  のとき特殊解

$$a_n = \sqrt{a_0 b_0} \cot(2^n \sigma), \quad b_n = -\sqrt{a_0 b_0} \tan(2^n \sigma), \quad \sigma = \tanh^{-1} \sqrt{\frac{-b_0}{a_0}} \quad (2.3)$$

をもつ。 $a_n, b_n$  は可解カオスである [2, 3]。

AHM は保存量

$$I_n = \frac{1}{\sqrt{a_n b_n}} \quad (2.4)$$

をもつ。(2.4)を用いて  $b_n$  を(2.1)より消去すると,

$$a_{n+1} = \frac{1}{2} \left( a_n + \frac{c}{a_n} \right), \quad c = a_0 b_0 \quad (2.5)$$

と書ける。これは2次方程式  $f(x) = x^2 - c = 0$  に対するニュートン法

$$a_{n+1} = a_n - \frac{f(a_n)}{f'(a_n)} = a_n - \frac{a_n^2 - c}{2a_n} = \frac{1}{2} \left( a_n + \frac{c}{a_n} \right) \quad (2.6)$$

と等しい。方程式(2.5)の任意の初期値のときの一般解は,[3]において,3重対角行列式を用いた解が既に求められている。本論では行列式解ではなく,それを式変形した

$$a_n = T_{2^n-1}(a_0 b_0; a_0), \quad b_n = \frac{a_0 b_0}{a_n}, \quad T_n(c; x) = \sqrt{c} \frac{(x + \sqrt{c})^{n+1} + (x - \sqrt{c})^{n+1}}{(x + \sqrt{c})^{n+1} - (x - \sqrt{c})^{n+1}} \quad (2.7)$$

を利用し議論を進める。(2.7)はさらに式変形すると,

$$a_n = (\phi^{-1} \circ x^{2^n} \circ \phi)(a_0), \quad \phi(x) = \frac{x + \sqrt{c}}{x - \sqrt{c}} \quad (2.8)$$

と書ける。(2.8)より,

$$a_{n+1} = (\phi^{-1} \circ x^2 \circ \phi)(a_n), \quad (2.9)$$

が成り立つ。(2.5)のAHMの1ステップの写像  $a_n \mapsto a_{n+1}$  は  $x^2$  と共役である。

### 3 SK-5の解

超幾何関数

$${}_2F_1(\alpha, \beta, \gamma; x) = \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(\alpha)_n (\beta)_n x^n}{(\gamma)_n n!} = \frac{\Gamma(\gamma)}{\Gamma(\alpha)\Gamma(\gamma-\alpha)} \int_0^{\infty} t^{\gamma-\alpha-1} (t+1)^{\beta-\gamma} (t+1-x)^{-\beta} dt \quad (3.1)$$

は,関数等式

$${}_2F_1(\alpha, \beta, 2\alpha; x) = \left(1 - \frac{x}{2}\right)^{-\beta} {}_2F_1\left(\frac{\beta}{2}, \frac{\beta+1}{2}, \alpha + \frac{1}{2}; \left(\frac{x}{2-x}\right)^2\right) \quad (3.2)$$

をみたく。等式(3.2)において,

$$\alpha = \frac{1}{2}, \quad \beta = 1, \quad x = \frac{b_n}{a_n} \quad (3.3)$$

とおいて,両辺を  $\sqrt{a_n}$  で割ると,

$$\frac{1}{\sqrt{a_n}} {}_2F_1\left(\frac{b_n}{a_n}\right) = \frac{2\sqrt{a_n}}{2a_n - b_n} {}_2F_1\left(\frac{b_n^2}{(2a_n - b_n)^2}\right) \quad (3.4)$$

となる。(3.4)の左辺を

$$I_n = \frac{1}{\sqrt{a_n}} {}_2F_1\left(\frac{b_n}{a_n}\right) \quad (3.5)$$

とおき, (3.4) の右辺が  $I_{n+1}$  となるように,  $a_n, b_n, a_{n+1}, b_{n+1}$  に条件を定めると (1.2) の SK-5 が導出される. SK-5 は保存量  $I_n$  をもつ離散力学系である. ちなみに, 等式 (3.2) において,

$$\alpha = \frac{1}{2}, \quad \beta = 1, \quad x = 1 - \frac{b_n}{a_n}, \quad I_n = \frac{1}{a_n} {}_2F_1 \left( 1 - \frac{b_n}{a_n} \right) \quad (3.6)$$

とおくと (2.1) の AHM が導出される.

方程式 SK-5 の保存量は (3.5) のように超幾何関数  ${}_2F_1$  を用いて与えられる. (3.5) の  ${}_2F_1$  のパラメータは,  $\alpha = 1/2, \beta = 1, \gamma = 1$  である. このとき超幾何関数  ${}_2F_1$  の積分表示は積分可能であり,  ${}_2F_1$  は初等関数

$${}_2F_1 \left( \frac{1}{2}, 1, 1; x \right) = \frac{1}{\sqrt{1-x}} \quad (3.7)$$

で書ける. よって, (3.5) は

$$I_n = \frac{1}{\sqrt{a_n - b_n}} \quad (3.8)$$

となる. (3.8) を用いて, (1.2) の  $b_n$  を消去すると, SK-5 は

$$a_{n+1} = \frac{(a_n + c)^2}{4a_n}, \quad c = a_0 - b_0 \quad (3.9)$$

と書ける. さらに, (3.9) において  $a_n = (\tilde{a}_n)^2$  とおくと,

$$\tilde{a}_{n+1} = \frac{1}{2} \left( \tilde{a}_n + \frac{c}{a_n} \right) \quad (3.10)$$

を得る. これは (2.5) の AHM に他ならない. SK-5 と AHM とは変換  $a_n = (\tilde{a}_n)^2$  により写りあう. 初期値が  $a_0 > b_0 > 0$  のときは, SK-5 は特殊解

$$a_n = (a_0 - b_0) \coth^2(2^n \sigma), \quad b_n = (a_0 - b_0) (\coth^2(2^n \sigma) - 1), \quad \sigma = \tanh^{-1} \sqrt{1 - \frac{b_0}{a_0}} \quad (3.11)$$

をもつ.  $a_n$  は  $a_0 - b_0$  へ,  $b_n$  は  $0$  へ 2 次収束する.

初期値が  $b_0 > a_0 > 0$  のときは, SK-5 は特殊解

$$a_n = -(a_0 - b_0) \cot^2(2^n \sigma), \quad b_n = -(a_0 - b_0) (\cot^2(2^n \sigma) + 1), \quad \sigma = \tan^{-1} \sqrt{\frac{b_0}{a_0} - 1} \quad (3.12)$$

をもつ.  $a_n, b_n$  は可解カオスである.

任意の初期値に対しては, 一般解として

$$a_n = (T_{2^n - 1}(a_0 - b_0; \sqrt{a_0}))^2, \quad b_n = a_n - a_0 + b_0 \quad (3.13)$$

が求まる. 一般解 (3.13) は

$$a_n = (\phi^{-1} \circ x^{2^n} \circ \phi)(a_0), \quad \phi(x) = \frac{\sqrt{x} + \sqrt{c}}{\sqrt{x} - \sqrt{c}} \quad (3.14)$$

と書き換えられる. よって, 写像  $a_n \mapsto a_{n+1}$  は  $x^2$  と共役である.

#### 4 SK-6 の解

SK-6 は , 関数等式

$${}_2F_1\left(\frac{1}{2}, 1, 1; x\right) = \frac{2-x}{2(1-x)} {}_2F_1\left(\frac{1}{2}, 1, 1; \frac{x^2}{4(x-1)}\right) \quad (4.1)$$

において , 保存量を

$$I_n = \frac{1}{\sqrt{a_n}} {}_2F_1\left(\frac{b_n}{a_n}\right) \quad (4.2)$$

とにおいて導出される . ちなみに , (4.1) において ,

$$I_n = \frac{1}{a_n} {}_2F_1\left(1 - \frac{b_n}{a_n}\right) \quad (4.3)$$

とすると , (2.1) の AHM において ,  $a_n, b_n$  を入れ替えた方程式が導出される .

SK-6 の保存量 (4.2) は SK-5 の保存量 (3.5) と等しいので , SK-6 の保存量 (4.2) も SK-5 の保存量 (3.8) と同じ

$$I_n = \frac{1}{\sqrt{a_n - b_n}} \quad (4.4)$$

となる . (4.4) を用いて (1.3) の  $b_n$  を消去し , さらに  $a_n = (\tilde{a}_n)^2$  とおくと ,

$$\tilde{a}_{n+1} = \frac{1}{2} \left( \tilde{a}_n + \frac{c^{-1}}{a_n} \right), \quad c = a_0 - b_0 \quad (4.5)$$

を得る . これは (2.5) の AHM と等しい .

初期値が  $a_0 > 0, b_0 < 0$  のときは , SK-6 は特殊解

$$a_n = (a_0 - b_0) \tanh^2(2^n \sigma), \quad b_n = (a_0 - b_0) (\tanh^2(2^n \sigma) - 1), \quad \sigma = \tanh^{-1} \sqrt{\frac{a_0}{a_0 - b_0}} \quad (4.6)$$

をもつ .  $a_n$  は  $a_0 - b_0$  へ ,  $b_n$  は  $0$  へ 2 次収束する .

初期値が  $b_0 > a_0 > 0$  のときは , SK-6 は特殊解

$$a_n = -(a_0 - b_0) \tan^2(2^n \sigma), \quad b_n = -(a_0 - b_0) (\tan^2(2^n \sigma) + 1), \quad \sigma = \tan^{-1} \sqrt{\frac{a_0}{b_0 - a_0}} \quad (4.7)$$

をもつ .  $a_n, b_n$  は可解カオスである .

任意の初期値に対しては , 一般解として

$$a_n = \left( T_{2^n - 1} \left( \frac{1}{a_0 - b_0}; \frac{1}{\sqrt{a_0}} \right) \right)^{-2}, \quad b_n = a_n - a_0 + b_0 \quad (4.8)$$

が求まる . 一般解 (4.8) は

$$a_n = (\phi^{-1} \circ x^{2^n} \circ \phi)(a_0), \quad \phi(x) = \frac{1/\sqrt{x} + 1/\sqrt{c}}{1/\sqrt{x} - 1/\sqrt{c}} \quad (4.9)$$

と書き換えられる . よって , 写像  $a_n \mapsto a_{n+1}$  は  $x^2$  と共役である .

## 5 SK-3 の解

SK-3 は，関数等式

$${}_2F_1\left(\frac{1}{2}, \frac{3}{4}, \frac{3}{4}; x\right) = \frac{1-x}{(1+x)^2} {}_2F_1\left(\frac{1}{2}, \frac{3}{4}, \frac{3}{4}; \frac{4x}{(1+x)^2}\right) \quad (5.1)$$

において，保存量を

$$I_n = \frac{1}{a_n} {}_2F_1\left(\frac{b_n}{a_n}\right) \quad (5.2)$$

とすることで導出される．(5.2) の  ${}_2F_1$  のパラメータは  $\alpha = 1/2, \beta = \gamma = 3/4$  である．よって AHM, SK-5, SK-6 のときのパラメータとは異なる．しかしながら，パラメータ  $\alpha = 1/2, \beta = \gamma = 3/4$  における  ${}_2F_1$  のべき級数表示より， ${}_2F_1$  は初等関数で書けて，(3.7) と同じとなる．よって，保存量 (5.2) は

$$I_n = \frac{1}{\sqrt{a_n - b_n}} \quad (5.3)$$

となる．(5.3) を用いて，(1.1) の  $b_n$  を消去すると，

$$a_{n+1} = c^{-1}(2a_n - c)^2, \quad c = a_0 - b_0 \quad (5.4)$$

となる．さらに  $a_n = c(1 - \tilde{a}_n)$  とおくと，

$$\tilde{a}_{n+1} = 4\tilde{a}_n(1 - \tilde{a}_n) \quad (5.5)$$

を得る．これはロジスティック方程式であり，可解カオス系の代表例である．

初期値が  $a_0 > b_0 > 0$  のとき，SK-3 は特殊解

$$a_n = (a_0 - b_0) \cosh^2(2^n \sigma), \quad b_n = (a_0 - b_0) \sinh^2(2^n \sigma), \quad \sigma = \tanh^{-1} \sqrt{\frac{b_0}{a_0}} \quad (5.6)$$

をもつ． $a_n, b_n$  は単調増加し， $+\infty$  に発散する．

初期値が  $a_0 > 0, b_0 < 0$  のとき，SK-3 は特殊解

$$a_n = (a_0 - b_0) \cos^2(2^n \sigma), \quad b_n = -(a_0 - b_0) \sin^2(2^n \sigma), \quad \sigma = \tan^{-1} \sqrt{\frac{-b_0}{a_0}} \quad (5.7)$$

をもつ． $a_n, b_n$  は可解カオスである．

SK-3 の方程式 (1.1) において，第 1 式の両辺を第 2 式の両辺でそれぞれ割ると

$$\frac{a_{n+1}}{b_{n+1}} = \frac{(a_n + b_n)^2}{4a_n b_n} \quad (5.8)$$

となる． $\tilde{a}_n = \sqrt{a_n/b_n}$  とおくと，

$$\tilde{a}_{n+1} = \frac{1}{2} \left( \tilde{a}_n + \frac{1}{\tilde{a}_n} \right) \quad (5.9)$$

を得る．これは AHM の  $c = 1$  の場合である．よって，SK-3 は任意の初期値に対して一般解

$$a_n = \frac{(a_0 - b_0)T_{2^n-1}\left(1; \sqrt{\frac{a_0}{b_0}}\right)^2}{T_{2^n-1}\left(1; \sqrt{\frac{a_0}{b_0}}\right)^2 - 1}, \quad b_n = a_n - a_0 + b_0 \quad (5.10)$$

をもつ．(5.10) の  $a_n$  を書き下すと

$$a_n = \frac{a_0 - b_0}{4} \left( \left( \frac{\sqrt{a_0} + \sqrt{b_0}}{\sqrt{a_0 - b_0}} \right)^{2^n} + \left( \frac{\sqrt{a_0} - \sqrt{b_0}}{\sqrt{a_0 - b_0}} \right)^{2^n} \right)^2 \quad (5.11)$$

と書ける．(5.11) をさらに書き換えると，

$$a_{n+1} = (\phi^{-1} \circ x^2 \circ \phi)(a_n), \quad \phi(x) = \frac{\sqrt{x} + \sqrt{x-c}}{\sqrt{x} - \sqrt{x-c}} \quad (5.12)$$

となる．写像  $a_n \mapsto a_{n+1}$  は  $x^2$  と共役である．

#### 参考文献

- [1] 榊 武史，筧 三郎: “超幾何関数で表される不変量を持つ差分方程式”，日本応用数理学会論文誌 **17** (2007), 455–462.
- [2] 中村 佳正 編: 可積分系の応用数理，裳華房，2000, p. 201.
- [3] K. Kondo, Y. Nakamura: “Determinantal solutions of solvable chaotic systems”, J. Comp. Appl. Math. **145** (2002), 361–372.